

登録コード	EKF01500	開講年度	2026			
授業科目	教科横断教育研究論				担当教員	小野 文子 他
英文授業名					副担当	八木 雄一郎・篠崎 正典
単位数	2	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	履修学年
講義室			授業形態	講義	備考	
信大コンピテンシー	非該当					
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】				⇔	【授業の達成目標】
	2 6 E Aカリ, 2 5 E Aカリ					
	教育の専門職としての学識・技能				⇔	教科を横断した領域を設定し、教育現場の実践的課題に即して、より広い授業づくりや教材開発ができるようになる。
	2 6 E Aカリ, 2 5 E Aカリ, 2 4 E Aカリ					
	既存の枠組みを超える柔軟な発想力と深い省察力				⇔	教科を横断した領域を設定し、教育現場の実践的課題に即して、より広い授業づくりや教材開発ができるようになる。
(2)授業の概要	人文社会系領域、社会科学領域、自然科学領域といった教科を横断した領域を設定し、各領域の教育研究の研究論を横断的に学ぶ。個々の教科の知識だけではなく、視野を拡大し、自由で柔軟な発想を持つことで、教育の現場における「授業力」、「教育力」をつけることを目指す。					
(3)授業計画	第 1 回：ガイダンス教育研究論 第 2 回：ガイダンス教育研究論と教育実践 第 3 回：人文系領域の教育研究論外観（担当：人文系領域の教員） 第 4 回：人文系領域の教育研究論の理論と事例（担当：人文系領域の教員） 第 5 回：人文系領域の教育研究論外観（担当：人文系領域の教員） 第 6 回：人文系領域の教育研究論の理論と事例（担当：人文系領域の教員） 第 7 回：社会科学系領域の教育研究論外観（担当：社会科学系領域の教員） 第 8 回：社会科学系領域の教育研究の理論と事例（担当：社会科学系領域の教員） 第 9 回：社会科学系領域の教育研究論外観（担当：社会科学系領域の教員） 第10回：社会科学系領域の教育研究の理論と事例（担当：社会科学系領域の教員） 第11回：自然科学系領域の教育研究論外観（担当：自然科学系領域の教員） 第12回：自然科学系領域の教育研究の理論と事例（担当：自然科学系領域の教員） 第13回：自然科学系領域の教育研究論外観（担当：自然科学系領域の教員） 第14回：自然科学系領域の教育研究の理論と事例（担当：自然科学系領域の教員） 担当教員：小倉光明・小野文子・昆万佑子・齊藤忠彦・酒井英樹・篠崎正典・竹下欣宏・藤田育郎・村松浩幸・八木雄一郎 第 2 ・ 3 ・ 4 回の授業は、オンラインで行います。					
(4)成績評価の方法	課題レポートと演習による研究発表に関わる討論によって各研究領域での内容が理解できているか、各研究課題（実践課題）に対する問題意識はどの程度深化しているかについて評価する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可					
(5)履修上の注意	・積極的に意欲をもって受講すること。 ・不明な点は、質問するなどして、積極的に解決すること。 ・授業に関する情報は、eALPSで必ず確認すること。					
(6)質問,相談への対応および連絡先	オフィスアワー：担当教員への質問・連絡方法は、各自担当教員と相談して決定すること。 なお、別表「担当教員のオフィスアワー」及びメールアドレスを参照すること。					
(7)成績評価の基準	「卓越している」：教科の本質（原則・方法・概念）を高度に理解するとともに、実践的課題への貢献を深く考察している。 「かなり上である」：教科の本質（原則・方法・概念）を的確に理解するとともに、実践的課題への貢献を深く考察している。 「やや上にある」：教科の本質（原則・方法・概念）をおおよそに理解するとともに、実践的課題への貢献を考察している。 「水準にある」：教科の基本的な概念や理論を最低限説明でき、実践的課題への貢献を考察している。					
(8)事前事後学習の内容について	各回の講義内容に関連した文献等を事前に図書館などで自主的に検索・収集してしらべること。また、各回の議論で話題になったことについて、事後に自分で調べて考察を深めること。					
【教科書】	・適宜提示する。					
【参考書】	・適宜提示する。					